

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

重点課題①「授業研究や生徒の学習への取組改善の達成度、授業への主体的取組度に関するアンケート分析をとおして、授業技術の向上を図り、効果的な学習指導や評価方法を研究する。」「目的意識の涵養と将来の職業人としての自覚や責任感を高めるためのキャリアガイダンスや進路講話などを充実させることで、進路意識の高揚を図る。担任及び教科担当者が必要に応じて個別面接を実施し、一人ひとりの生徒に寄り添った進路選択・進路実現を支援する。」、重点課題②「生徒指導方針について、生徒・保護者・教職員の共通理解を図ることで、生徒の規範意識の向上と基本的生活習慣の確立を目指す。生徒会や自律委員会を中心に、通信機器の使用に関するルールを守るための話し合いを行うなどの取り組みにより、生徒の自覚ある行動を促す。」「部活動に3年間継続して参加するよう、呼びかけるとともに、部活動において生徒が充実感を得られるような取り組みを展開する。計画的なホームルーム活動や生徒の主体性を重視した生徒会活動・部活動を推進する。地域に貢献するボランティア活動などをとおして、生徒の社会性や協調性を育てる。」を設定し、課題解決のための方策に取り組んだ。

課題①では、生徒と教員が授業の中で目標を共有しながら学習活動を行うことで、生徒に目標達成に向けての計画(Plan)、目標を達成するための行動(Do)を意識させて授業を中心とした日々の学習活動を行えるように留意している。また、考査や評価が終わったタイミングで振り返り(Check)や次の目標に向けての新たな行動(Act)を行えるようなしかけ作りができるように工夫している。ICT機器をいつどのように使用することが学習効果をより高めることになるのかを模索しながら授業改善に努めている。生徒アンケートから「生徒のPDCAサイクルの改善達成度」は81.1%「授業への主体的取り組み度」では83.3%の生徒がほぼ達成できていると答えている。また、全教員が年に1回以上授業を公開し、かつ他教科も含めた2回以上の授業見学を行う互見授業では、授業参観メモを用いて授業者にフィードバックする方法で互いに学びあいができている。進路では、1学年進路講話を8月から6月に変更し、自分ごととしての進路選択の早期意識付けを行った。また1学期保護者会のタイミングで進学相談会を本校で行い、進路について考える機会を保護者にも提供できた。ICT教材を導入し、学習補助だけでなく、進路探究やアンケート機能の活用を図り生徒の状況把握や学習に関する声かけ、進路イベントの広報に役立てている。1・2学年について「進路行事や面接により進路意識が高まったと考える生徒の割合」は90.7%、3学年について「3年間の進路支援に対する満足度」は90.1%と目標を達成した。しかしながら個々の生徒によって差があり、職業観や大学等の入試制度が多様化する中で、全体と個別をうまく使い分けた進路指導の工夫が必要である。

課題②では、遅刻生徒を減らすために4月から生徒玄関で登校指導を行っていたが、本校の遅刻生徒の多くは、起立性障害や不登校傾向による体調不良者であるため、登校指導の必要性が低いと考え3学期からは行っていない。寝坊などの遅刻は少ないため、担任から時間を守る指導をお願いしている。スマホ等の校則については4月の集会やHRで説明を行い、生徒会や自律委員会からもポスターなどで注意を促している。1・2学年が校内でのスマホ等利用による指導件数が多かったが、規範意識が足りないことが理由であり、学年指導で面談と反省文、奉仕活動等を行っている。SNSトラブルの被害や不適切投稿の報告は無かった。特別活動ではアンケート結果から「生徒会行事への自主的・積極的参加」は96%であり、体育大会、文化活動発表会などの生徒会行事で生徒の主体的な活動が多く見られた。部活動では受賞件数は232件と増えており、全国大会に参加する部が増えたことも影響

している。今年度から1年生の全員部活動制をやめて任意とした結果、1年生の部活動加入率は90%であった。(2年:91%、3年:85%で昨年度並)。「部活動で奉仕活動やボランティア活動を年に1回以上実施」は37%と低かった。今年度は以前まで行っていた富山マラソン給水ボランティアに3つの部が参加しており、やりがいを感じた生徒が多く満足度は非常に高かった。

学校評議員からは次のようなご意見、評価をいただいた。様々な工夫が実践され概ね目標の達成度も高く、その効果も検討されているところが評価できる。達成目標と達成度が文字や数字で表すだけでは生徒の様子がなかなか見えず分かりづらい。アクションプランが形式なものに終わらないようにしてほしい。地域から愛されている学校なので、地域との協同活動などを通して生徒の社会活動を活発にしていくとさらに魅力が高まるのではないか。教員の負担軽減のための工夫やその効果検証を続け、より先生方が力を十分に発揮して生徒だけでなく先生方も生き生きと教育に取り組める環境づくりを目指していただきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

学習指導、進路支援、生活指導、特別活動は、生徒の学力の充実、進路実現と人格の完成に向けて、本校における教育活動の柱とするところであり、引き続き重点として取り組むべき課題である。

授業研究については、互見授業を活用して教員の指導力向上につなげ、生徒が苦手科目においても主体的に学習に取り組むことができるように授業の研究に励んでいきたい。

進路支援については、1年生のうちから大学見学や職場見学の機会を検討することやICT教材をより効果的に活用することにより、明確な進路目標を早い段階で持たせ、主体的に学びに向かう姿勢を養っていきたい。

生徒指導・特別活動については、①校則の周知、モラルやマナー向上のために生徒会や委員会が中心となって計画する。②教師は課題を学校全体のものとしてとらえ同じ方針で指導に当たる。③生徒会行事や学校行事、ボランティア活動、部活動に積極的な参加を促す。この3つの実践により、基本的な生活習慣を身につけさせ規範意識を持たせて、生徒の主体的な活動と部活動の充実を目指していきたい。

8 学校アクションプラン

令和6年度 新湊高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業技術の向上と生徒のPDCAサイクルの確立 ・進路意識の高揚 	
重点課題	<p>生徒が目標に向けて学習計画を立て、授業を中心とした学習活動において計画を実行し、その結果に対して振り返りを行い、次の目標に向けて改善を図るという主体的な学習態度を身につけることができるように教師は授業改善に努める。</p> <p>また、進路関係行事や面接を充実させることにより、個々の目標に応じた適切な進路指導を実践し、自己実現を目指す。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、これまでも互見授業期間を設定し、教員が相互に授業を公開し、意見交換を行っている。授業においては「主体的で対話的な深い学び」につながるようにグループワーク、ディスカッション、ペア・ワーク等を取り入れたり、思考力・判断力・表現力を育てるためにタブレットなどのICT機器を用いたりして授業改善に努めてきた。また、主体性を持って多様な人々と協働して学ぼうとする態度を育成することにも力を注いできた。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・年間授業計画において観点別の学習の達成度目標を生徒に提示し、教師と生徒が目標を共有することで生徒の学習改善につなげられるようにしている。 ・具体的な進路目標を見つけ、目標に向けた主体的・計画的な学習に結びつける必要がある。また、困難な課題に直面したときに、安易な選択をしがちなため、より高い目標に自ら挑戦するよう進路意識を高める必要がある。そのため、各種進路行事で全体への指導を実施し、必要に応じて面接によるフォローアップを行っている。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施 1人1回以上の授業公開と2回以上の見学（他教科の授業を1回以上見学） ・生徒のPDCAサイクルの改善達成度 85%以上 生徒の授業への主体的取り組み度 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2学年 ・進路行事や面接により、進路意識が高まったと考える生徒の割合 4段階中3以上・・・70% 3学年 ・3年間の進路支援に対する満足度 4段階中3以上・・・70%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を互いに参観する機会を設け、計2回以上参観する。様々な視点から指導方法を検討するため他教科の授業を1回以上参観する。 ・授業を検討する方法として授業参観メモを用いて授業者にフィードバックする。 ・学校訪問では各教科で授業検討会を実施し、そこでの意見や指導主事からの助言をその後の授業改善に役立てる。 ・授業研究における指導計画にアクティブ・ラーニングの視点に立った活動やICT機器の効果的利用をした授業を取り入れ、学習の効果を高めるようにする。 ・今年度から導入したスタディーサプリを用いて生徒アンケートを実施する。その結果を分析し、教科部会等で評価方法や指導法を検討する。 ・進路指導部及び学年と連携し、考査、模試、検定試験、学びの基礎診断などを実施した後、個々の生徒や学年全体の結果分析を行い、学力向上に結びつく指導方法について検討する。 	

達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1回以上の授業公開については85.7%の実施率であった。年に2回以上の授業見学については、同教科の授業見学率は教育委員会の学校訪問の中で実施されたため100%、他教科の見学率は94.3%であった。 ・①「当てはまる」と回答した生徒は約30.3%「やや当てはまる」を含めると約81.1%であった。 ・②「当てはまる」と回答した生徒は約36.8%「やや当てはまる」を含めると約83.3%であった。 	<p>1・2学年合計 90.7%</p> <p>1学年… 83.2%</p> <p>2学年… 97.9%</p> <p>3学年 90.1%</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教員が授業の中で目標を共有しながら学習活動を行うことで、生徒に目標達成に向けての計画(Plan)、目標を達成するための行動(Do)を意識させて授業を中心とした日々の学習活動を行えるように留意している。また、考査や評価が終わったタイミングで振り返り(Check)や次の目標に向けての新たな行動(Act)を行えるようなしなやか作りができるように工夫している。 ・公開授業においては、見学者が授業についての感想や意見を用紙に書いて授業者に渡すシステムにしたところ、率直な感想をもらうことができ、今後の授業改善に結びつくヒントが得られたという意見が多くあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年8月に実施していた1学年進路講話を、自分ごととしての進路選択の早期意識付けとして6月に変更した。 ・各学年キャリアガイダンスは、実際に職業人や上級学校の話を開けることから満足度の高い行事であった。また、希望生徒と保護者を対象に、上級学校広報担当との進学相談会を本校で実施し、進路について考える機会を保護者にも提供できた。 ・担任による面接を、形式にとらわれず必要な時に柔軟に実施した。 ・ICT教材の導入で、学習補助だけでなく進路探究やアンケート機能の活用を図り、生徒の状況把握や進路支援に役立てた。
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒へのアンケートから、全教科に対する学習への取組みについては、苦手科目に対しては積極的に取り組むことができない生徒が一定数いると考えられ、目標の数値には届かなかった。 ・公開授業についてはほぼ全員が実施することができた。また、公開授業を行う負担を減らすためにやり方を変更したため、以前よりもやりやすかったという意見が聞かれた。授業見学も事後研修会の開催は行わず、感想を書いて渡す形式にしたことで見学しやすい環境へと近づいた。 ・今年度実施した進路関係行事に対して、1・2年生の90%の生徒が次年度継続実施を希望している。特に、2学年研修旅行での大学訪問等の体験は、進路意識の向上に役立った。 ・面接では、一人ひとりに寄り添い、自己理解や夢の実現に向けての支援につなげることができた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・以前よりも気軽に授業見学ができることは伝わったが、得意な単元・得意ではない単元の両方で研究授業をしてはどうか。 ・教員間でどのように情報共有する雰囲気を作ろうとしているのか知りたい。 ・生徒の苦手科目への主体的取り組みを促すための方策を、次年度は期待したい。 ・進路の意識付けは早ければ早い方が学業への意欲が向上し、学年全体の雰囲気や士気が高まるので良いと思われる。進路支援に関して目標を達成できていると感じる。 ・負担軽減のための工夫とその効果検討がなされており、引き続き負担が少なく効果が高い対応の模索を継続してほしい。 	

<p>次年度に向けての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が得意科目だけでなく苦手科目においても主体的に学習に取り組むことができるように、教員は生徒の興味関心を引き出す授業の研究に励む。 ・教員が互いに学び合えるように、公開授業を積極的に活用する。また、教員間で気軽に情報共有ができる雰囲気や環境作りに努める。 ・キャリアガイダンスや研修旅行のような体験を伴う進路行事は生徒の満足度が非常に高いので、1年生にも大学見学や職場見学の機会を検討したい。 ・明確な進路目標を早い段階で持たせ、主体的に学びに向かう姿勢を養うことが求められる。 ・ICT教材をより効果的に活用していく必要がある。
-------------------	---

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)

<p>令和6年度 新湊高等学校アクションプラン - 2 -</p>					
<p>重点項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立と通信機器使用におけるモラルの向上 ・ 生徒の主体的な活動と部活動の充実 				
<p>重点課題</p>	<p>基本的生活習慣の確立と携帯通信機器使用におけるモラルの向上を目指す。部活動の充実化を図るとともに、行事等への参加をととして学校生活に主体的、積極的に取り組む態度を育成する。</p>				
<p>現 状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校では遅刻指導に重点を置いて長年取り組んでいるが、遅刻件数は横ばい状態で、遅刻指導に苦慮している。遅刻を繰り返す生徒は心身不調や不登校と関連していることが多いと思われる。 ・ 校地内でスマートフォン等の使用を禁止しているが、各学年で年間10件以上の違反者が報告されており、その都度指導を行っている。また件数は少ないがSNSでの誹謗中傷、肖像権侵害など数件報告を受けている。SNSの危険性や利用マナーについて認識が薄いと思われる。 ・ 生徒会行事に積極的に参加する生徒は多く、昨年度、生徒会行事に「自主的かつ積極的に参加した」と答えた生徒は95%であった。多くの行事で生徒たちの主体的な活動が見られた。 ・ 昨年度は部活動をととして自分を成長させることができたと感じている生徒は90%と多かった。また、3年生の部活動継続率は85%と前年度より高くなった。 ・ 文化部の受賞が増え、受賞件数は目標を達成している。運動部も受賞件数は多い。 				
<p>達成目標</p>	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="295 1339 826 1433"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻者の人数 各学年、1日平均3人未満 </td> <td data-bbox="826 1339 1430 1433"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感じることができる生徒の割合 92%以上 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="295 1433 826 1653"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通信機器に関するマナー違反件数 各学年、年間5件以内 </td> <td data-bbox="826 1433 1430 1653"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奉仕活動や校外ボランティア活動を年1回以上実施した部の割合 50%以上 ・ 各種大会やコンクールで受賞した件数 150件以上 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻者の人数 各学年、1日平均3人未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感じることができる生徒の割合 92%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信機器に関するマナー違反件数 各学年、年間5件以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奉仕活動や校外ボランティア活動を年1回以上実施した部の割合 50%以上 ・ 各種大会やコンクールで受賞した件数 150件以上
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻者の人数 各学年、1日平均3人未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感じることができる生徒の割合 92%以上 				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信機器に関するマナー違反件数 各学年、年間5件以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奉仕活動や校外ボランティア活動を年1回以上実施した部の割合 50%以上 ・ 各種大会やコンクールで受賞した件数 150件以上 				
<p>方 策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒玄関で登校指導を行う。 ・ 遅刻を繰り返す生徒にはその原因を明らかにさせ改善策を考えさせる。 ・ 保健厚生部や担任との連携、保護者には家庭指導票を活用して協力をお願いする。 ・ 生徒会や自律委員会を中心に、携帯通信機器使用におけるマナーやモラルの意識を高める。 ・ 生徒会執行部が中心となって多くの生徒の意見を聞き、意向に沿えるよう立案させる。諸行事でより多くの生徒に役割分担をして生徒の主体的な活動が増えるようにする。 ・ 生徒会執行部がボランティア活動を推進するような取り組みをする。また各部活動でもボランティア活動を計画し実施することで、多くの生徒が年に1回はボランティア活動を経験する。 ・ 生徒会費や特別活動等助成費を有効に活用して環境整備を充実させて、生徒の積極性や技能向上、活動の効率化を図る。 				

達成度	<p>遅刻者の人数（4～11月の132日間）</p> <p>1学年 35日／132日</p> <p>2学年 9日／132日</p> <p>3学年 92日／132日</p> <p>通信機器に関するマナー違反件数</p> <p>1学年 14件</p> <p>2学年 13件</p> <p>3学年 5件</p>	<p>① 生徒会行事に自主的かつ積極的に参加。 1学年 99% 2学年 93% 3学年 95% 全体 96%</p> <p>② 部活動で奉仕活動やボランティア活動を年 1回以上実施 0回 63% 1回 21% 2回以上 16%</p> <p>③ 受賞件数232件（3月10日現在）</p>
具体的な 取組状況	<p>遅刻生徒を減らすために4月から生徒 玄関で登校指導を行っていたが、本校の 遅刻生徒の多くは、起立性障害や不登校 傾向による体調不良者であるため、登校 指導の必要性が低いと考え3学期から は行っていない。寝坊などの遅刻は少な いため、担任から時間を守る指導を願 いしている。</p> <p>スマホ等の校則については4月の集会 やHRで説明を行い、生徒会や自律委員 会からもポスターなどで注意を促して いる。1・2学年が校内でのスマホ等利 用による指導件数が多かったが、規範意 識が足りないことが理由であり、学年指 導で面談と反省文、奉仕活動等を行っ ている。</p>	<p>① 大きな行事として体育大会、文化活動発表 会・合唱コンクールを生徒会が主催して行っ た。生徒の満足度は高かった。また新たな試 みとして3月に生徒の親睦を深める目的と した集会を企画した。どの行事も生徒たち の主体的な行動が多くみられた。</p> <p>② 4年目の取り組みである。1回以上の実施率 は昨年度とほぼ同じであったが、今年度は富 山マラソンの給水ボランティアを5年ぶり に行った。生徒たちからは参加してよかつ たという声が多く聞かれた。また六渡寺海岸清 掃ボランティアを新たに行った。</p> <p>③ 部活動は活発に行われている。文化部の受賞 も多く、また全国大会出場も多くあり、受賞 数が増加した。</p>
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数を減らすための具体的な対策が無かった。 SNSトラブルの被害報告は無かった。 ネットパトロールから不適切投稿の報告は無かった。 どの行事も生徒会執行部を中心に生徒たちが主体となって活動していた。文化活 動発表会・合唱コンクールは2年ぶりの開催であったが、コロナ前の規模で実施 することができた。生徒たちの満足度も高かった。 ボランティア活動の目標は達成できなかったが、富山マラソンや海岸清掃ボラン ティアを実施した。参加した生徒たちには貴重な経験となった。 運動部・文化部とも受賞件数は多くなっている。
学校関係 者の意見	<p>規範意識の向上については、一方的な押しつけや罰則だけでは効果は期待できないので 対策がどれだけ効果を持つのかを検証しつつ実施するのがよい。</p> <p>遅刻はスマホ使用最終時間に大きく関係すると考える。</p> <p>遅刻者のうち体調不良者への対応は、保健厚生部等が主となり、専門的な分野、領域か らの支援を得ながら解決策を見出していくことが求められる。</p>	
次年度に 向けての 課題	<p>来年度は生徒指導部と特活部が統合されるため、基本的な生活習慣を身につける、規範 意識を持たせる、生徒の主体的な活動と部活動の充実を目標にして次の3つを課題とする。</p> <p>① 校則の周知、モラルやマナー向上のために生徒会や委員会が中心となって計画する。</p> <p>② 教師は課題を学校全体のものとしてとらえ同じ方針で指導に当たる。</p> <p>③ 生徒会行事や学校行事、ボランティア活動、部活動に積極的に参加するよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部の生徒たちは行事の立案、運営に対して主体的に関わっていきたいと考 えており、学校行事に生徒会の意見を反映させていく体制づくりが必要である。 ボランティア活動では、富山マラソンなどのボランティアの情報を提供することによ り、部活動単位または個人での参加率向上を呼び掛ける。 部活動で成長を感じられたと答えた2年生の割合が昨年度より低いことがやや心配で はあるが、受賞件数は増えており全体的には活発に行われている。部活動の充実のた めには顧問の協力が不可欠であり、今後も根気強い指導が求められる。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した）